

<イエメン事業> 「人々の生命線である食糧提供」



ICAN イエメン事務所
Abdulmalek Aqlan
Mohammed AL-aqab
～プロフィール～
大学卒業後、MBAを取得。複数のイエメンのNGOを経て、2016年3月に入職。

私は普段首都のサナアに住んでいますが、今、食糧提供のためにタイズ州に来ています。イエメンの紛争が激化してからもうすぐ4年半が経ちますが、依然として、各地で激しい戦闘が続いています。特に、南部に位置するここタイズ州は、政府軍と反政府軍の攻防の最前線であり、最も被害が激しい州の1つです。以前は町の中心部まで15分で行けましたが、道路は各地で寸断され、現在では山と谷を越える悪路を通り数時間もかかります。路上にはごみが溢れ、安全な飲料水の不足等から、コレラやマラリアが蔓延しています。電気もありません。イエメンの通貨は暴落し、生活必需品の物価高騰が続いています。家の中で明かりをつけたり、屋上へ上がるだけでも撃たれる危険性があります。同地域のモスクは、以前礼拝に向かう人々が狙撃兵により射殺されてしまったことをきっかけに、2年間以上閉鎖されています。このような明日さえも見えない生活は、この地に住む人々を苦しめています。

アイキャンでは2016年からここタイズ州で食糧提供を実施しています。これだけ前線に近い地域において、安全な提供場所を確保するのは大変なことです。人々が食糧を持って移動する負担を考えると、なるべく住んでいる地域から近いところになければならず、治安当局と協議して提供場所を慎重に選びます。今回の提供は1回につき、これまでで最大規模の1,720世帯への提供だったため、提供日時を朝と夕方に分けたり、提供場所を複数設定する等して、調整を行いました。よりスムーズに提供を行うため、提供後には住民からの意見を基にみんなで振り返りを行い、翌日以降の提供時に改善するよう心掛けました。例えば、初日の提供場所では想定以上の人数の住民が早くから並び、一部は日よげのない状態で待つことになってしまいましたが、翌日以降の提供時には、日よげができる場所を作り、住民の負担を減らしました。



提供時、寡婦世帯や病気で働けない人々、全てを捨てて逃れてきた国内避難民の方々から「紛争が始まって以来、初めての食糧提供を受け、とても感謝している」という声が多く聞かれました。私たちが行っている食糧提供は、多くの人々にとって生命線です。今後もアイキャンの一員として、人道的義務を果たし、一人でも多くの人々の命をつないでいきます。

ある日のスケジュール

- 8:00 メールチェック
- 9:00 食糧提供準備
(裨益者リスト・配布カード作成)
- 13:00 食糧業者へ連絡
- 15:00 食糧提供チームとの打ち合わせ
- 16:00 食糧提供実施報告書作成
- 17:00 帰宅

ソマリア事業

7月/ソマリランド(ハルゲイサ)

干ばつを防ぐ貯水池の完成



ソマリアでは、2011年干ばつと食糧高騰に起因する飢饉により、26万人の命が失われました。その後も毎年のように、水不足により、多くの人々、家畜の被害が出ています。アイキャンは、ソマリア北部ソマリランドの首都ハルゲイサ近郊

にあるガラビス地区において、貯水池の建設を進めています。ガラビス地区には、約100世帯が居住しており、この貯水池が完成すると、干ばつによる水不足の緩和が期待されます。

ボランティア・寄付活動推進事業(街頭募金) 7月7・20日/大阪

活気溢れる街頭募金



大阪梅田において、2回の街頭募金を実施しました。高校生・大学生・社会人等、様々な方々にご参加いただきました。2回目では、パネルをより高い位置で持つように心がけたことにより、視覚的にインパクトを与えることができ、募金につ

ながりました。参加者からは「若いボランティアメンバーがたくさんいて活気があり、楽しかった!」「みんなで声を揃えると迫力があり、まとまりを感じた。」等の感想がありました。

フィリピン事業(マニラ・路上) 7月3日/バヤタス(フィリピン)

商品陳列のセミナーに参加



アイキャンとフェアトレード生産者団体SPNPは、マニラで開催されたフィリピンの各地の日系NGOが集まるJICA主催のバザーとセミナーに参加しました。セミナーでは効果的な商品陳列の仕方を学んだ後、グループに分かれて実際に商品陳列を体験しました。研修の最後には、講師の方から「陳列だけでなく、SPNPスタッフのビビアンさんの笑顔はお客様を惹きつけるのにとっても良い」との高評価を頂きました。

能力強化事業(国際理解海外研修) 6月30日~7月14日/フィリピン

自分自身を見つめ直すきっかけになった海外研修



名古屋国際高校2年生の生徒20名と教員1名がフィリピンにおいてアイキャンの事業地訪問と現地の方々との交流をしました。参加した男子生徒は、「色々な人と関わり、それぞれの体験を聞き、普段の生活や自分自身を見つめ直す良いきっかけになった」と話し、女子生徒は「私が今、世界に対してできる事は何かを深く考える事ができるようになった」と話してくれました。様々な課題を自分事として考える機会になりました。